

# 被災者たちに元気を

東日本大震災の被災者を元気づけようと、日本全国同時花見が17日、大槌町や陸前高田市で催された。ボランティアグループ「ぼくらの復興支援 いわて・ゆいっこ」が支援・参加し、大槌町会場では花巻市の早池峰神楽や鹿踊りが出演。復旧・復興に祈りを込めた舞を披露し、避難所生活を送る人たちを励ました。

## 復旧・復興へ祈り込め

### 日本全国同時花見大槌町会場 花巻の鹿踊りなど舞披露

震災で壊滅的な被害を受けた同町では、避難所になっていく安渡小学校で花見が催された。周囲の桜が開花し始め、避難所生活者300人近くが校庭のブルーシートに座り、花見に参加した。開会に当たり、安渡地区津波対策本部の佐藤稲満本部長が「晴天の下、多くの支援で花見が催されたことに感謝する。この催しが復旧・復興の出

発点となり、癒やしを得て今後の活動の糧にした」とあいさつ。同ゆいっこ花巻支部の高橋寛代表も「今回の催しは深甚なる祈りをささげるものであり、互いに絆を深め、新たな安渡地区の発展を願う」と語り、震災犠牲者の鎮魂と復興への思いを伝えた。

さらに、「頑張ろう」の音頭とともに参加者全員で乾杯した。同ゆいっこでは花巻支部と横浜支部のメンバーら約50人が駆け付け、焼き肉や焼き魚などを調理して避難者たちに振る舞った。

郷土芸能は、花巻市の春日流八幡鹿踊が用いられ、演舞を行ったほか、国連教育科学文化機関(ユネスコ)無形文化遺産に登録されている早池峰神楽の大償神楽が権現舞を披露した。同町の虎舞が締めくくりに登場し、被災者たちに元気を与えた。避難所暮らしをしている同町の小国正勝さん(78)は「津波から着の身着のまま逃げた助かった。1カ月以上も避難所生活をしているので、こうした催しは気持ちが高ぶれる。お酒をいただいたのも久しぶり」と花見のひとつときを楽しんだ。

会場では共同宣言も行われ、「鹿踊り、神楽など岩手の地は芸能の宝庫と



平成二十一年九月三十日  
ユネスコ登録記念

鎮魂と復興を願い、特設ステージで踊られた大償神楽の権現舞

呼ばれてきた。その多くはたび重なる津波や飢饉・凶作でいのちを落とした者。できた人々を供養する芸能である。すべての犠牲者のこころに平安あれ。

全国同時花見に参加した大槌町の避難所生活者たち

